

# 地質ニュース

昭和 42 年 8 月

第 156 号

1967

解 説	第三系堆積盆地の形成機構に関する研究 ～新潟堆積盆地～	島田忠夫 三梨美智夫 宮下邦尉 影山木元	1
	粘土の陽イオン交換容量(CEC)の測定と交換性陽イオンの定量	藤貫正 藤井紀 武司秀	10
トピックス	原子吸光分光分析装置	後藤 隼次	15
講 座	アメリカに最初の Tectonophysics 研究センター誕生	星野 一男	14
	礫岩・礫層のしらべ方 ② 採取した試料の粒度分析	角 靖夫	18
	水井戸の話 ⑦ 井戸の保存	村下 敏夫	30
海外事情	テヘランで開催された第2回地下水セミナーに出席して	小西 泰次郎	32
	黒い金 ～エクワドルの新油田～	竹田 英夫	46
	南太平洋見聞記 ②	沢田 秀穂	50
資 料	堆積岩の研究 方法 ⑧-2	平山次郎 渡部美南子	55
	学会 掲 示 板		53
	地 学 と 切 手	堀内 恵彦	54

編 集 地 質 調 査 所

表紙の写真

罫 穴

能登路 4

罫穴は“かめあな”ともいわれ、岩盤に穿たれた円筒形の穴である。ふつう、下方侵食作用の旺盛な急流、滝などの河床にできることが多いが、巖門付近のものは、これが礫波の力で岩石海岸に生じた例である。第三紀層の安山岩凝灰角礫岩からなる海食台上にみられる。その均整のとれた形と配列は、まるで人工的につくられたかのような感じをうける。実はこれも海食作用による自然の造形なのである。最初、岩盤にあった小さな割れ目や、角礫がえぐりとられた跡の凹みに過ぎなかったものが、角礫片が波で回転運動を行ない次第に岩を削磨したため、このようにみごとに罫穴に成長したのである。清潔な水を透して穴の底に丸くなった数個の岩片が認められる。これがいわばボールミルの正体である。(盛谷 智之)

発 行 株 式 会 社 実 業 公 報 社